



株式会社オーケーエム
2023年3月期 通期決算説明資料

2023年5月19日

証券コード : 6229
<https://www.okm-net.jp/>

目次

1. オーケーエムについて	3
2. 2023年3月期 決算	12
3. 2024年3月期 業績予想	22
4. 成長戦略（中期経営計画）	25
5. 参考資料	44



1

オーケーエムについて

About Us



PURPOSE

存在意義

いい流れをつくる。

目に見えるもの、見えないもの。

私たちは、あらゆる流体をつないでいる。

社会の課題を見つけ環境を考え、
働きやすく暮らしやすい世の中へ導く。

私たちは信じている。

独創的な技術で、いい流れをつくる。

オーケーエムグループ

1973年（昭和48年）に制定。他社に真似のできない「独創的な技術」をもって近江商人の三方よし「売り手よし・買い手よし・世間よし」を実現していく

一. 独創的な技術

オーケーエムは、他社に真似のできない製品・サービスを創り続けます。
我々は、すべての仕事に「こだわり・工夫・改善」を積み重ね、強みを連携させて顧客・社会の発展に貢献します。

二. 最高の品質 最低の資源消費

オーケーエムは、顧客が感動できる製品・サービスを創り続けます。
我々は、採算意識を持って、最高の仕事をすることで、無駄を最小に、利益を最大にします。

三. 余裕ある生活と豊かな心

オーケーエムは、社員の物心両面の幸福の追求と、健康に活躍できる職場づくりをします。
我々は、希望ある充実した生活を送り、仕事を通じて自己実現を果たし、誇りを持って働ける会社をつくりま

四. 地域社会に貢献する

オーケーエムは、市民の一員であるという認識に立ち、持続可能な社会づくりに貢献し、
地域にとって必要とされる会社となります。
我々は、家族・社会の発展、幸せ増進の実現に向けて活動をします。

バルブの開発・設計から製造、販売までワンストップサービスを提供する 1902年（明治35年）創業のバルブメーカー

商号	株式会社オーケーエム
代表者	代表取締役社長 奥村 晋一
本社所在地	滋賀県野洲市市三宅446-1
創業	1902年（明治35年）1月
設立	1962年（昭和37年）5月31日
資本金	1,178,602,655円
連結売上高	9,164百万円 （2023/3期）
従業員数	連結：334名 単体：236名 *2023年3月末時点、臨時従業員を除く
拠点	<p>【支 店】 東京、大阪</p> <p>【営業所】 名古屋、広島、福岡 【駐在員事務所】 ホーチミン*、韓国</p> <p>【工 場】 日野工場、東近江工場</p> <p>【研究所】 本社・研究開発センター（滋賀県野洲市）</p> <p>*ホーチミン駐在員事務所は、OKM VALVE (M) SDN. BHD.に属する。</p>
連結子会社	<p>【中国】 奥村閥門（江蘇）有限公司</p> <p>【マレーシア】 OKM VALVE (M) SDN. BHD.</p>
事業免許	<p>経済産業大臣高圧ガス認定事業所（N弁類）</p> <p>ISO9001認証（品質マネジメントシステム）</p> <p>ISO27001認証（情報セキュリティマネジメントシステム）</p>
株式上場	東京証券取引所 スタンダード市場 証券コード：6229（2020年12月上場）

滋賀県野洲市に本社と研究開発センターを設置

国内の8拠点と海外の4拠点からグローバルへと事業を展開

国内拠点



本社・研究開発センター



東近江工場



日野工場

8 拠点



海外拠点

製造・販売拠点 (外注生産先)

- OKM VALVE (M) SDN. BHD.
(マレーシア スランゴール州)



- 奥村閥門 (江蘇) 有限公司
(中国 江蘇省 常熟市)



販売・サポート拠点

- 韓国駐在事務所
- ホーチミン駐在事務所

4 拠点

バルブとは？

**バルブは流体を「流す」「止める」「絞る（調節する）」ための機器
時代のニーズに合わせて姿・形を変え、さまざまな用途で使用されてきた**

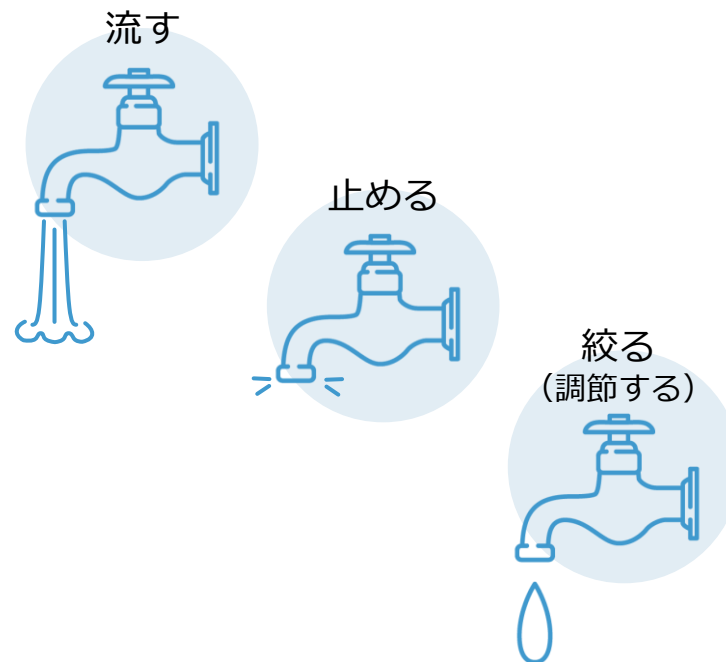
バルブとは…

流体が通る空間の開閉や流体の制御・調整などができる可動機構を持つ機器（弁）を「バルブ」と総称。工場やビル、車、船、宇宙ロケットなどに使用される。

●バルブの使用シーン



一番身近なバルブ = 「水道の蛇口」



流体は水や空気だけでなく、
高温、低温、高圧、酸性、油などさまざま

コンパクトで汎用性の高いバタフライバルブを中心に、
流体と制御の条件に合わせて最適なバルブを提案している

バタフライバルブ



電子制御バルブ

- 弁体（輪っかの中の円板）を90度回転して開閉する
- 中間開度での流量調整機能にも優れ、幅をとらず、省スペースで設置可能

使用シーン

- 一般工業
- 造船
- 空調設備
- 建築設備
- 化学薬品
- 石油オイル
- など

ナイフゲートバルブ



- 鋭いエッジを有するプレートの出し入れてで開閉する
- 各種スラリー、粉粒体、固形物など、一般のバルブでは処理できない流体を止めることが可能

使用シーン

- 紙・パルプ
- 鉱山
- 石油化学
- 下水処理
- 食品
- 高濃度
- 粉粒体
- 高粘度 など

2023年3月期
売上構成比

84%

16%

ピンチバルブ



- ゴムチューブを押し挟んで流路を開閉する
- 固形物が混入しても完全遮断が可能
- 長寿命でメンテナンス容易

使用シーン

- ヘドロ
- 粉体
- 鉍石スラリー
- パルプ
- セメント
- 下水汚泥 など

約20種類の型式をラインナップし、多様な流体に合わせたカスタマイズは10万種類以上
幅広い取扱製品と耐熱温度範囲で、顧客のニーズに細やかに対応

①営業・マーケティング



時代やトレンドを捉えた製品をいち早く提供することにより、幅広い業界の大手優良顧客基盤を確立。長年かけて蓄積した多種多様なデータを活用し、新たな製品を生み出している。

②製品開発機能



各種実験プラントを自社で所有してバルブ特性や流量特性などの実験を行い、データを収集・解析。耐熱温度範囲は「-196℃～700℃」となり、顧客ニーズにより近い環境を実現可能にしている。

③カスタマイズ製品



広範囲にわたる業界に対応できる製品ラインナップを保有し、多品種・小ロットで、カスタマイズ製品を開発・供給。また、顧客の個別ニーズに合わせたカスタマイズバルブを開発している。

当社がカスタマイズするバルブ

型式	×	サイズ	×	部品	×	材質	×	制御方法	=	10万種類以上
<ul style="list-style-type: none">・バタフライバルブ・ナイフゲートバルブ・ピンチバルブ・チェックバルブ など		<ul style="list-style-type: none">・内径サイズ 最小25mm～ 最大3,000mm		<ul style="list-style-type: none">・本体・弁体・シートリング・上部弁棒・ガスケット		<ul style="list-style-type: none">・ダクタイル鋳鉄・鋳鋼・ステンレス・樹脂・ゴム など		<ul style="list-style-type: none">・レバー式・ギヤ式・シリンダ式・電動式		

船舶排ガス用バルブを扱う主なエンジンメーカーは日本・中国・韓国の3カ国
オーケーエムは世界シェアの50%弱、日本シェアの90%超を占める
世界の環境規制対応船の建造増加に伴い、今後も売上は拡大していく見込み

船舶排ガス用バルブ

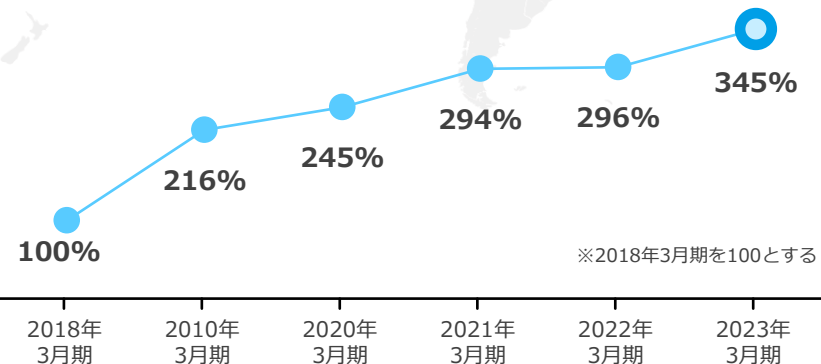
世界シェア No.1

(2023年3月末現在、当社調べ)

当社の船舶排ガス用バルブ開発に向けた動きと売上高伸び率

世界No.1の
船用エンジンデザイナーの
MAN*と規制対応バルブの
共同開発を開始

世界で初めて
主要船舶エンジンライセンサーから
認証を取得



*MAN (MAN Energy Solutions) : 船舶用2ストロークの主機 (推進用) エンジンの世界トップライセンサー

2

2023年3月期 決算

FY23 Financial Results



1

2023年4月10日

通期の業績予想を修正し、配当予想を5円増額修正

2

2023年3月17日

株式会社滋賀銀行との間で「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」契約を締結

2023年4月25日

再整理した情報をもとに「サステナビリティサイト」を公開

3

2023年3月8日

経済産業省と日本健康会議が選定する健康経営優良法人認定制度において、「健康経営優良法人2023（中小規模法人部門）」に認定

4

2023年1月19日

LNG（液化天然ガス）用バルブで
近畿経済産業局の「関西ものづくり新撰2023」最優秀賞を受賞

5

2022年12月13日

IFA（資産運用アドバイザー）向け会社説明会をオンラインで実施

2022年12月17日

兵庫にて個人投資家向け説明会を対面で開催（神戸投資勉強会）

2023年2月18日

愛知にて個人投資家向け説明会を対面とオンラインのハイブリッドで実施（KabuBerry）

- ◆ バルブ製造業界は新型コロナウイルス感染症による景気後退の影響を受けていたが、各種プラント向けや半導体装置・材料向けの設備投資を中心に回復傾向にある。
- ◆ 売上高は過去最高を達成したものの、船用市場において国内造船所のスロー建造化が想定よりも長引いていることを主として期初予想は未達となった。
- ◆ 販売価格改定や各種経費削減の取り組みが奏功し、営業利益以下は期初予想を大幅に上回った。

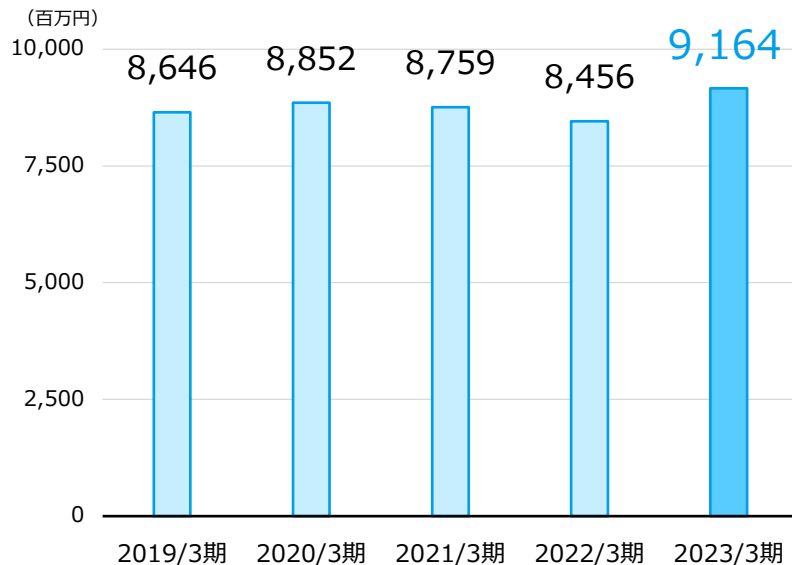
(百万円、%)	2021/3期			2022/3期			2023/3期				
	実績	売上比	前年同期比	実績	売上比	前年同期比	実績	売上比	前年同期比	期初予想	期初予想比
売上高	8,759	100.0	—	8,456	100.0	▲3.5	9,164	100.0	8.4	9,500	▲3.5
営業利益	1,009	11.5	—	662	7.8	▲34.4	823	9.0	24.3	630	30.6
経常利益	1,025	11.7	—	724	8.6	▲29.3	870	9.5	20.0	635	37.0
親会社株主に 帰属する当期純利益	749	8.6	—	850	10.1	13.4	767	8.4	▲9.7	430	78.4

	2021/3期	2022/3期	2023/3期
総資産	12,006	12,365	12,574
純資産	7,681	8,520	9,209
自己資本比率 (%)	64.0	68.9	73.2
1株当たり配当金 (円) (株式分割調整後)	年間40円 (普通配当35円 記念配当5円)	年間45円 (普通配当35円 記念配当10円)	年間40円 (普通配当35円 特別配当5円)

売上高・営業利益の推移

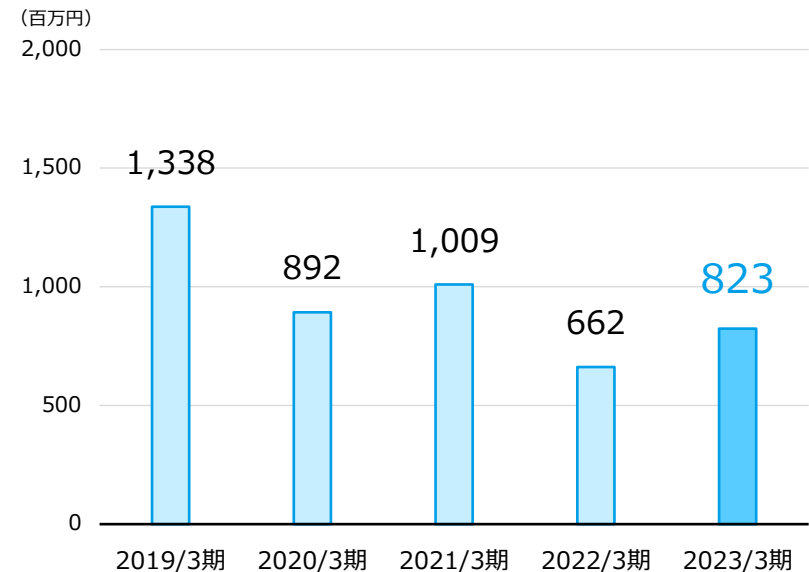
- ◆ 売上高は3期ぶりに過去最高を更新。
- ◆ 営業利益は前年同期比大幅増となり、営業利益率も前年同期比+1.2ptの9.0%となった。

売上高



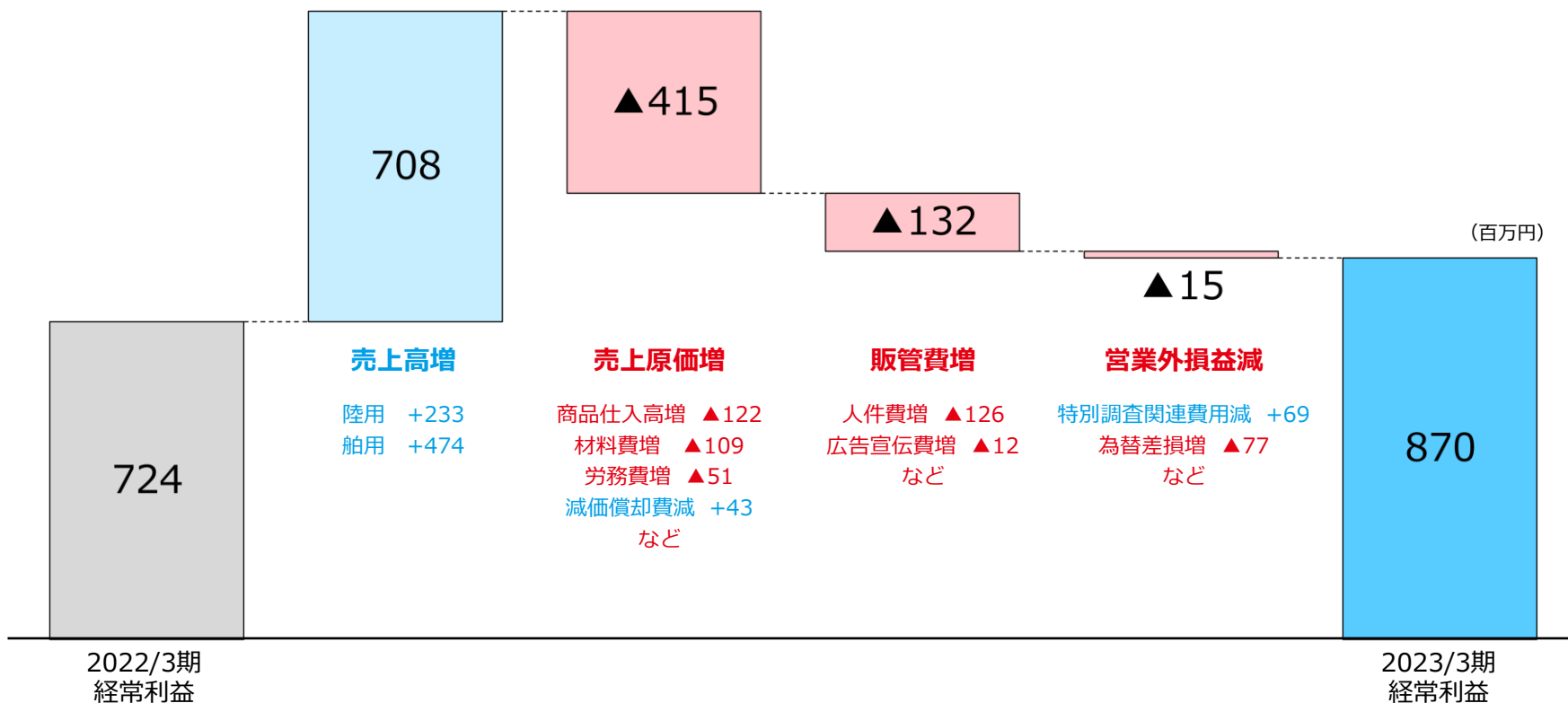
新型コロナウイルス感染症による景気後退の影響を受けたものの、幅広い業界との取引を行っているため売上高は大きく落ち込むことなく堅調に推移。

営業利益



船舶排ガス用バルブの需要が急激に増加し最高益を達成した2019/3期以降、東近江工場の新設や人材採用、研究開発などの積極的な投資を行いながらも営業利益は堅調に推移。

- ◆ 売上高は市場環境が回復傾向にあることから陸用・船用ともに増収。
- ◆ 原材料価格の高止まり・数量増により商品仕入高が増加。
- ◆ 減価償却費は2022/3期をピークに減少傾向。
- ◆ 給与制度の改定（ベースアップ）や給与手当の見直し実施により労務費・人件費が増加。



- ◆ 陸用では、半導体装置・材料の製造工場向けや高層ビルの空調設備向けの納入が堅調に推移。
- ◆ 舶用では国内造船所のスロー建造化の影響を受けたものの、超大型コンテナ船向けや船舶排ガス用バルブの納入により前年同期比11.4%増。
- ◆ 業界別では、半導体関連材料製造ラインの増設工事向けの納入があった石油化学業界や、高炉の大規模改修工事向けの納入があった鉄鋼・金属業界が好調。

(百万円、%)

市場別売上高（連結）	2021/3期		2022/3期		2023/3期	
	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比
売上高	8,759	▲1.0	8,456	▲3.5	9,164	8.4
陸用	4,207	▲9.2	4,288	1.9	4,521	5.4
舶用	4,551	7.8	4,168	▲8.4	4,642	11.4

業界別売上高（単体）	2021/3期		2022/3期		2023/3期	
	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比
売上高	7,973	▲2.3	7,762	▲2.6	8,383	8.0
陸用	3,682	▲7.1	3,807	3.4	3,927	3.2
建築設備	558	▲17.6	708	27.0	697	▲1.6
石油化学	365	25.5	541	48.0	621	14.9
鉄鋼・金属	185	▲40.9	414	123.2	468	13.1
電力・ガス	228	12.7	411	79.8	397	▲3.4
その他	2,344	▲5.4	1,731	▲26.1	1,743	0.7
舶用	4,291	2.3	3,955	▲7.8	4,455	12.7

売上高構成（地域別）

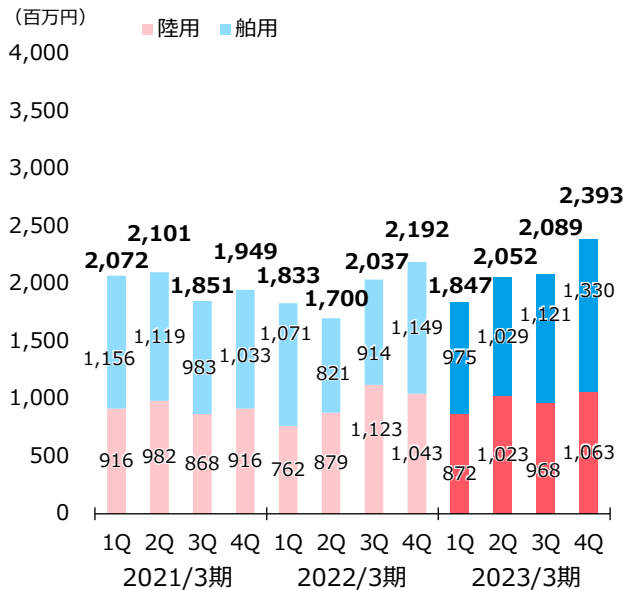
- ◆ 海外売上高比率は24.6%と直近3カ年では同水準を維持。
- ◆ 韓国では、船舶排ガス用バルブが海外の競合他社から価格攻勢を受けて減少。
- ◆ 中国では、上海ロックダウンの影響を受けたものの、船用向けが好調に推移。
- ◆ マレーシアでは、水道向けや半導体工場向けが堅調に推移。

(百万円、%)

地域別売上高	2021/3期		2022/3期		2023/3期	
	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比
売上高	8,759	▲1.0	8,456	▲3.5	9,164	8.4
日本	6,363	▲0.1	6,247	▲1.8	6,906	10.5
韓国	1,173	▲4.4	1,183	0.8	1,003	▲15.2
中国	819	11.3	598	▲27.0	722	20.7
マレーシア	156	▲44.3	204	30.4	230	12.7
その他	246	3.0	224	▲8.9	301	34.4
海外売上高比率	27.4%	—	26.1%	▲1.3pt	24.6%	▲1.5pt

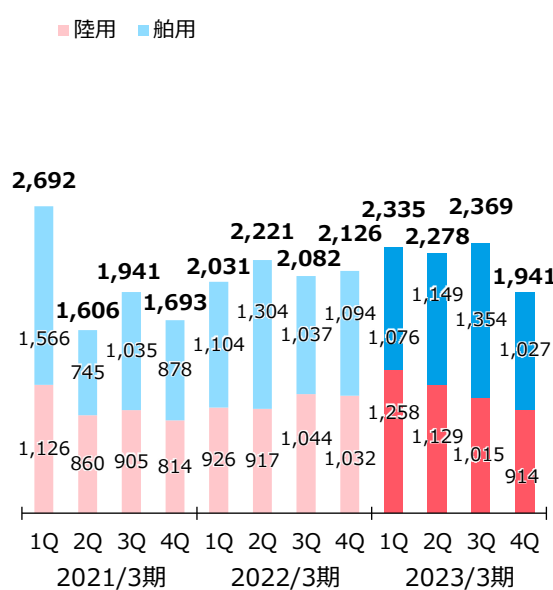
- ◆ 受注残は第3四半期に過去最高を達成。
- ◆ 第4四半期は受注高が足踏み状態となったことに加え3月の月次売上高が急増したため受注残が減少。
- ◆ 舶用においては、2022年6月の価格改定の発表を受けて一時的に買い控え傾向となったが、第3四半期に受注が集中した。陸用の受注高は減少傾向になるも高水準を維持。

売上高



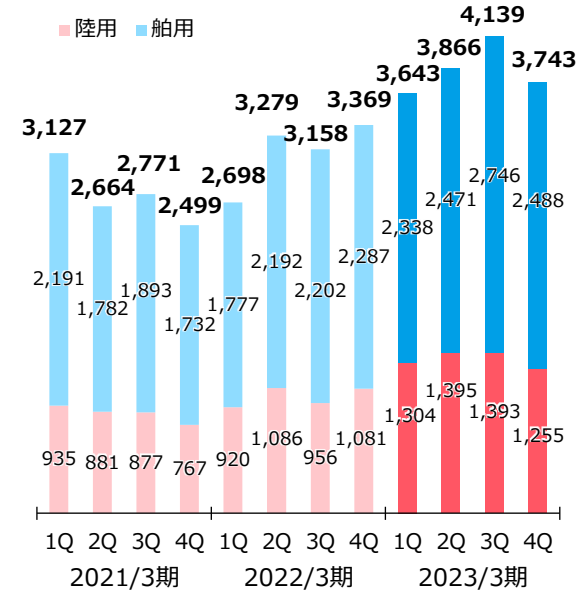
新型コロナウイルス感染症による景気後退の影響を受けたものの、幅広い業界との取引により売上高は底堅く推移した。

受注高



2023/3期3Qまでは陸用・舶用ともに高水準を維持。4Qについては反動を受け減少した。

受注残



2023/3期3Qまでは新造船の発注増を受けて増加。4Qについては受注高が減少したことに加え3月の月次売上高が急増したため減少した。

- ◆ 例年と比べて2023年3月度の月次売上が増加したことで売上債権が増え、さらに棚卸資産の増加により現預金が一時的に減少。

(百万円)

<主な項目>	2021/3期	2022/3期	2023/3期
資産合計	12,006	12,365	12,574
流動資産	7,252	7,925	8,190
現預金	3,071	3,480	1,613
売上債権	1,749	1,939	3,339
棚卸資産	2,275	2,398	3,156
固定資産	4,754	4,440	4,384
建物及び構築物（純額）	2,202	2,657	2,581
土地	737	695	706
負債合計	4,324	3,845	3,364
流動負債	2,099	2,166	2,282
支払債務	842	991	983
固定負債	2,225	1,678	1,081
長期借入金	1,540	1,363	946
純資産合計	7,681	8,520	9,209
株主資本	7,757	8,427	8,990
利益剰余金	5,471	6,140	6,703

- ◆ 3月度の月次売上高が増加し売上債権が増加したことで営業キャッシュ・フローは大きく減少。
- ◆ 定期預金の払戻により投資キャッシュフローは増加。

(百万円)

＜主な項目＞	2021/3期	2022/3期	2023/3期
営業キャッシュ・フロー	1,093	993	▲1,294
税金等調整前四半期純利益	1,026	1,214	977
売上債権の増減額（▲は増加）	310	▲177	▲1,393
棚卸資産の増減額（▲は増加）	125	▲67	▲730
仕入債務の増減額（▲は減少）	▲1	133	▲12
未払又は未収消費税等の増減額	▲303	118	▲35
補助金の受取額	9	511	68
法人税等の支払額	▲231	▲193	▲427
投資キャッシュ・フロー	▲1,902	▲237	585
定期預金の預入による支出	▲512	▲254	▲1
有形固定資産の取得による支出	▲1,278	▲203	▲70
保険積立金解約による収入	—	92	—
財務キャッシュ・フロー	1,242	▲695	▲557
長期借入金の返済	▲274	▲285	▲1,413
配当金の支払い	▲66	▲180	▲203
現金および現金同等物残高	2,487	2,713	1,560

3

2024年3月期 業績予想

FY24 Financial Forecasts

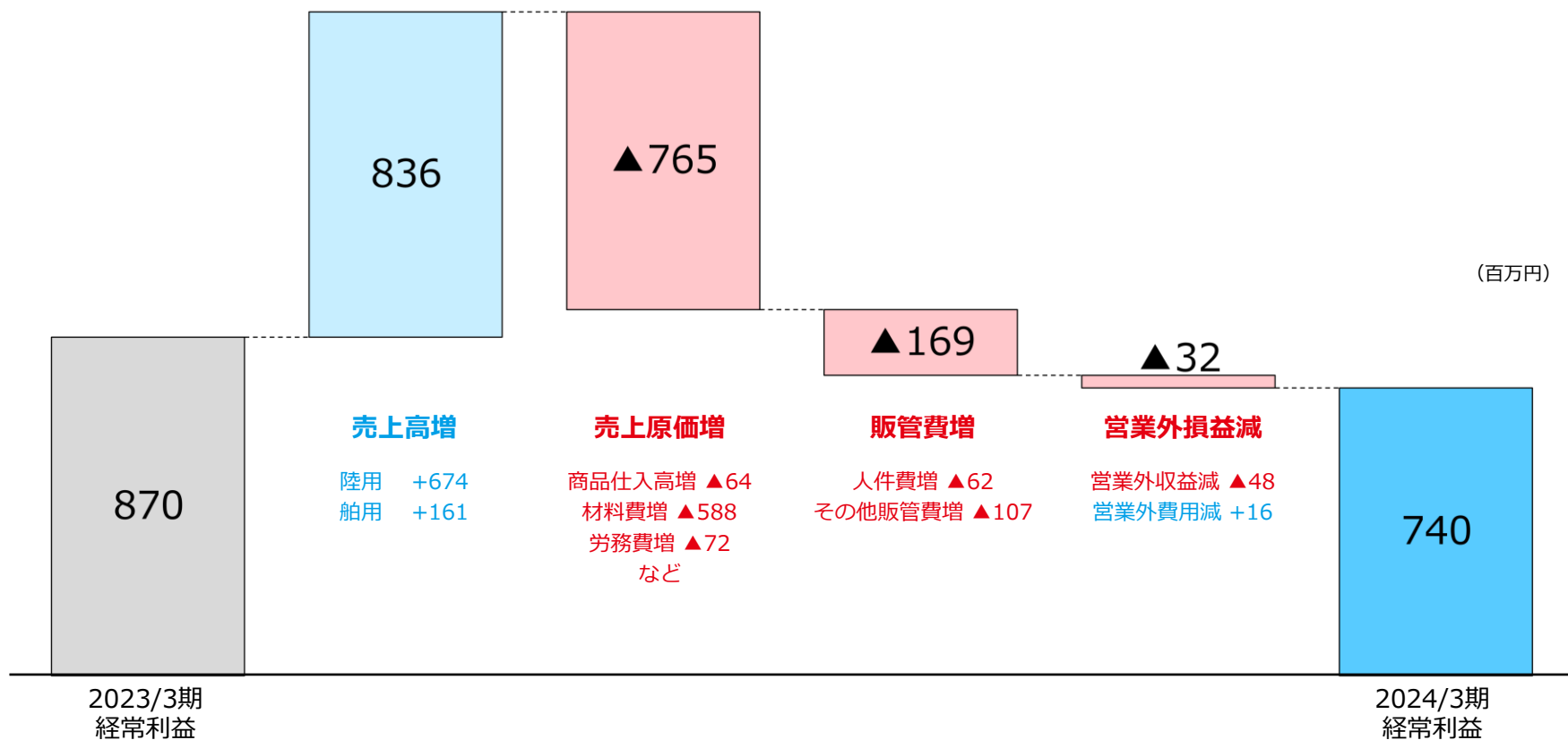


- ◆ 2024年3月期の売上高は、陸用、舶用ともに市場環境が回復傾向にあることから、2023年3月期に続いて過去最高を見込む。
- ◆ 原材料価格の高止まりや船舶排ガス用バルブの販売単価の下落の影響などを見込み、営業利益以下は減益を予想。

(百万円、%)

	2022/3期		2023/3期		2024/3期 業績予想		
	実績	前年同期比	実績	前年同期比	予想	売上比	前年同期比
売上高	8,456	▲3.5	9,164	8.4	10,000	100.0	9.1
営業利益	662	▲34.4	823	24.3	725	7.3	▲11.9
経常利益	724	▲29.3	870	20.0	740	7.4	▲15.0
親会社株主に帰属する当期純利益	850	13.4	767	▲9.7	500	5.0	▲34.8
1株当たり配当金 (円) (株式分割調整後)	45	(普通配当35円 記念配当10円)	40	(普通配当35円 特別配当5円)	35		

- ◆ 売上高は、陸用・船用ともに市場環境が回復傾向にあることから、2期連続で過去最高を見込む。
- ◆ 原材料価格の高止まりや労務費・人件費の増加などによって減益の見込み。



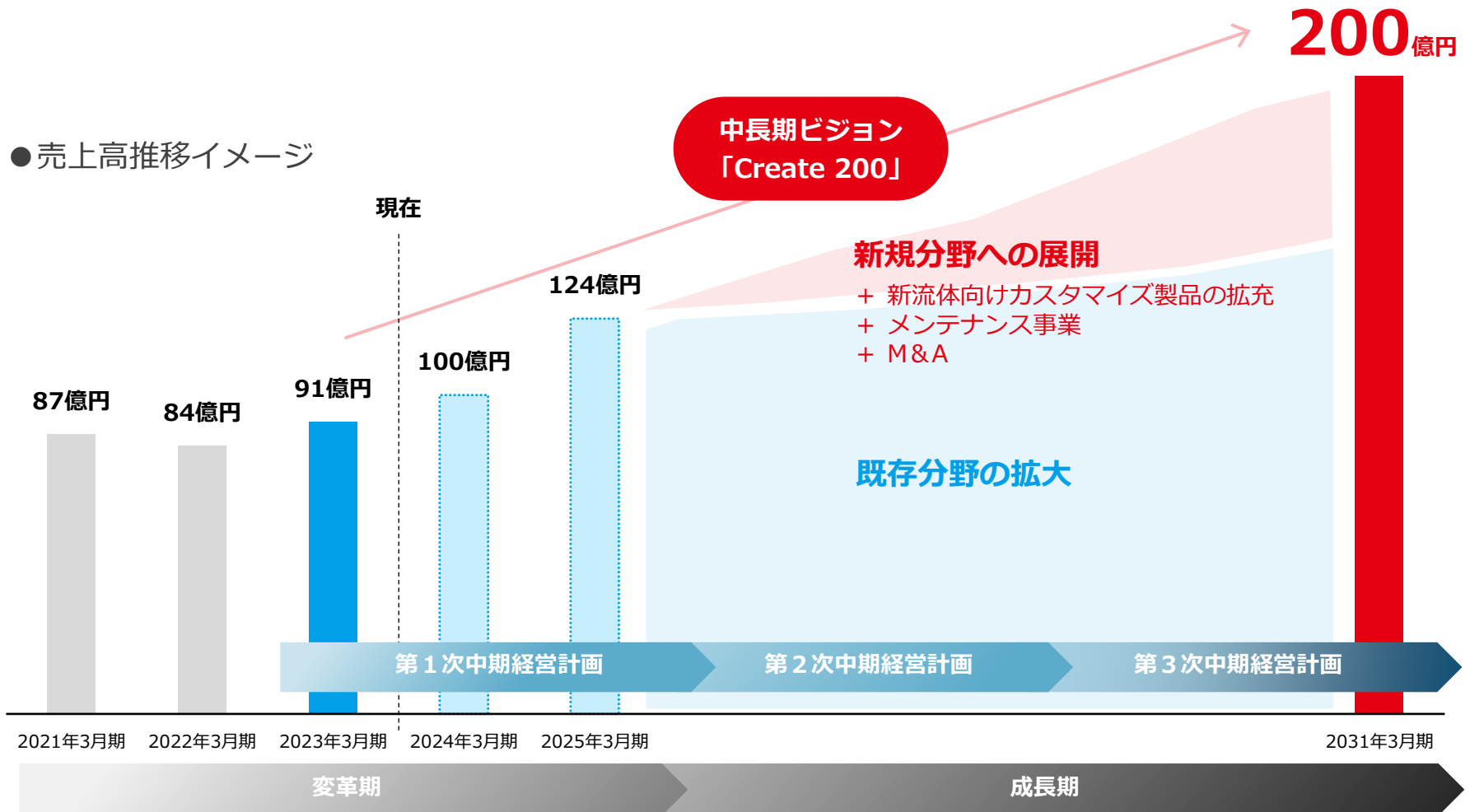
4

成長戦略（中期経営計画）

Our Growth Strategy

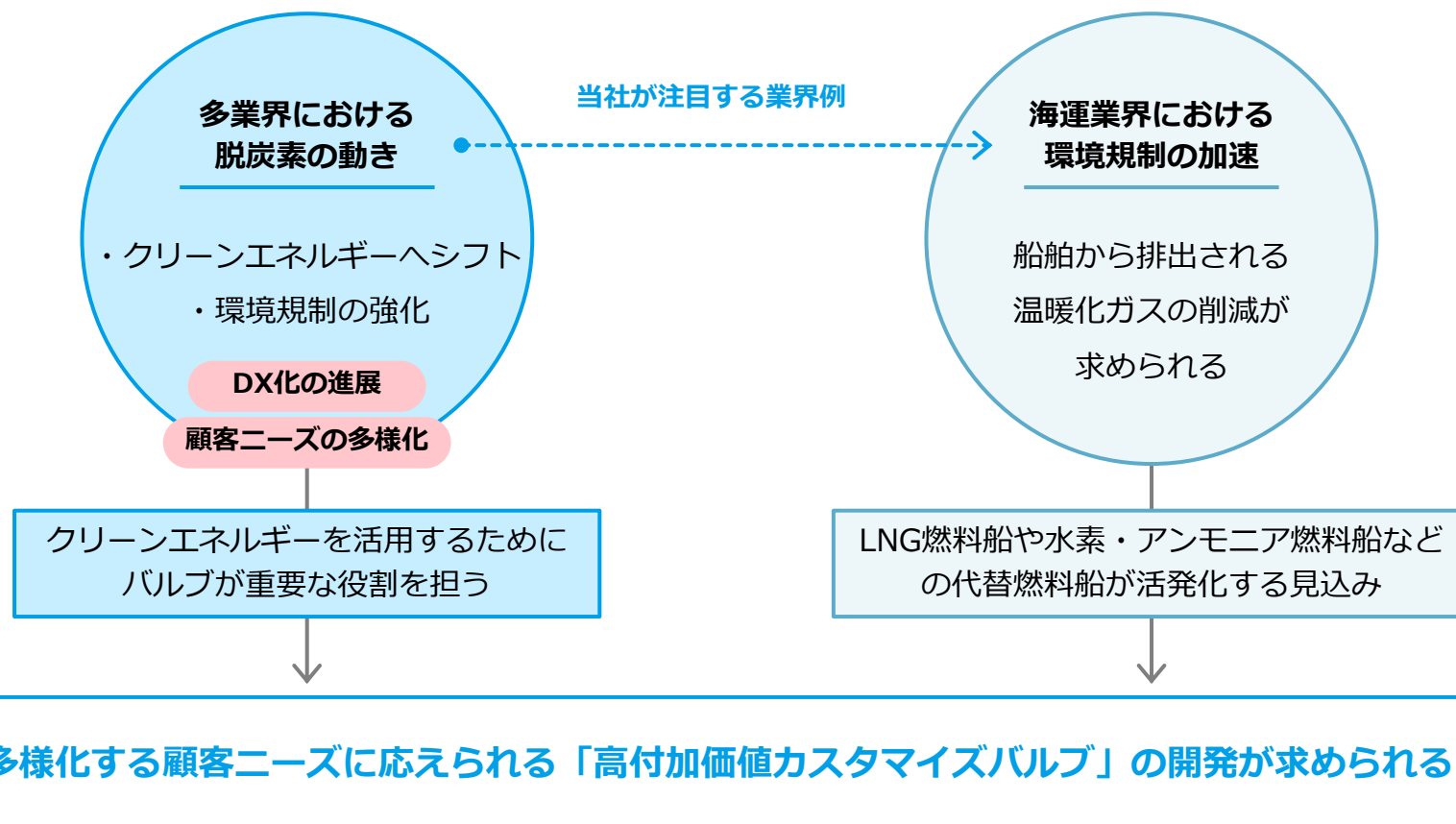


2031年3月期に連結売上高200億円を目指す中長期ビジョン「Create 200」
本中期経営計画は、その実現に向けた「第1次中期経営計画」という位置づけ



事業を取り巻く環境

- ◆ 脱炭素社会に向けた新エネルギーへのシフトおよび環境規制に伴う需要が発生。
- ◆ クリーンエネルギーの製造・貯蔵・運搬の過程でバルブが必要に。
- ◆ 船舶から排出される温暖化ガスの削減が急務となり、2030年以降に燃料転換が活発化する見込み。



Purpose : いい流れをつくる。

社是 : 独創的な技術 / 最高の品質 最低の資源消費 / 余裕ある生活と豊かな心 / 地域社会に貢献する

中長期ビジョン : 「Create 200」 (2031年3月期に連結売上高200億円を目指す)

足元の事業環境 : 多業界における脱炭素の動き / 海運業界における環境規制の加速

第1次中期経営計画方針

脱炭素化に向けた
クリーンエネルギー市場を含む
成長市場に対応できる
新商品開発と販売体制を確立する

第1次中期経営計画方針

脱炭素化に向けたクリーンエネルギー市場を含む成長市場に対応できる**新商品開発**と**販売体制**を確立する

戦略Ⅰ 成長市場に対応できる新商品開発と販売体制を確立する

- 施策① 脱炭素社会向け製品の研究開発
- 施策② 低炭素社会向け製品の販売展開
- 施策③ 船舶排ガス用バルブ製造・販売の強化
- 施策④ 新たな販売体制の構築

戦略Ⅱ 既存の商品力を強化する

- 施策 生産体制の変革

戦略Ⅲ 企業風土を変革し、サステナブルに成長・発展する

- 施策① ガバナンスの向上
- 施策② サステナビリティをめぐる課題への取り組み推進

戦略Ⅳ 社員満足度を向上させる

- 施策① 人材育成の加速化
- 施策② ワーク・ライフ・バランスの推進

施策① 脱炭素社会向け製品の研究開発

- ◆ 世界で脱炭素やGX（グリーントランスフォーメーション）の動きが活発化。
- ◆ 当社グループにおいては、特に燃料としてのクリーンエネルギーに注目しており、水素、アンモニア、バイオメタノールなどどのエネルギーにも対応できるよう産官学で連携し製品開発を進める。

重点取り組みと進捗

アンモニア用バルブ、CO2用バルブの製品開発 進捗評価：○（順調に進捗）

- バルブのシール機構に関する開発を行い、試作品の設計を完了
- アンモニア燃料船用バルブのプロトタイプを2023年12月に試験搭載決定
- 未燃アンモニア除去設備用バルブの受注を獲得

液化水素用大口径バタフライバルブの研究開発 進捗評価：○

- 液化水素用大口径バタフライバルブの研究開発は計画通りに進捗（サポイン事業）
- 大手エネルギー企業の液化水素（LH2）運搬船プロジェクトに参画開始
- 2024年に向けて液化水素運搬船用LH2用バルブの具体化を推進

産官学連携により、

「脱炭素化」を見据えた事業領域を拡大するための施策を展開 進捗評価：○

- マーケティング活動や補助金事業などを通じて、産官学と連携した研究開発を推進
- 近畿経済産業局「関西ものづくり新撰2023」の最優秀賞受賞を契機として新たな連携先を模索

3カ年の目標・KPI

- アンモニア用バルブの開発完了
- CO2用バルブの開発完了



New product



2023年3月期 進捗

各取り組みが
計画通りに進捗

施策② 低炭素社会向け製品の販売展開

- ◆ 国際海運業界では、100年にわたり使用されてきた重油からの燃料転換が急務となっている。
- ◆ 国内大手海運会社も同様であり、脱炭素への「移行期」の燃料としてLNG（液化天然ガス）に注目が集まる。
- ◆ 当社グループにおいても、この潮流に乗りLNG燃料船向けバルブの製造販売を推進している。

重点取り組みと進捗

国内市場の販売拡大に向けた営業活動の推進 進捗評価：◎（大変順調に進捗）

- 堅調に推移。他客先への展開も計画通りに進捗
- 14隻受注、8隻内示

LNG用バルブの海外市場参入に向けたラインアップの拡充 進捗評価：△（やや遅延）

- 受注製品の品質安定化に向けた取り組みを優先した結果、
海外市場向け製品開発については当初計画に対してやや進捗が遅れた
- 2024年3月期に品質安定化とコストダウンを並行して実施する

LNG用バルブのコスト低減を推進 進捗評価：○

- 各種製造工程におけるリードタイムを短縮して原価を低減

3カ年の目標・KPI

LNG燃料船への導入

 × **20** 隻



2023年3月期 進捗

受注隻数 **14** 隻

内示隻数 **8** 隻

施策③ 船舶排ガス用バルブ製造・販売の強化

- ◆ 2016年1月、国連専門機関の国際海事機関（IMO）が船舶排気ガスに係る環境規制を強化（NOx3次規制）。
- ◆ 船舶用2ストロークの主機（推進用）エンジンの世界トップライセンサーであるMAN社から、世界で初めて認証を受け、船舶排ガス用バルブ市場に参入。
- ◆ 現在、競合他社が台頭してきており価格攻勢を受けている。

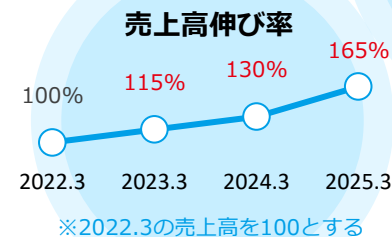
重点取り組みと進捗

継続的な製品の改良、改善 進捗評価：△

- 全社を挙げて現状分析と課題解決策を推進
- 製品のコストダウンを含めた改良を推進

最適地生産、最適地販売 進捗評価：×（遅延）

- 中国子会社にて製造販売を開始したものの、顧客要求の変化により生産体制や品質保証の体制を再整備中
- 船舶排ガス用バルブ以外の標準品製造において、日本から中国子会社への移行を推進



3カ年の目標・KPI

世界シェア
1位を維持

2023年3月期 進捗

117% (実績)

目標値115%を達成

施策④ 新たな販売体制の構築

- ◆ お客様への提案に必要な顧客情報や過去の成功経験を分析、共有、集約し、効率的な販売活動に活かす仕組みを整備し、提案機会の損失や営業スキルのバラつきを最小限にする。
- ◆ 顧客情報・販売ノウハウを蓄積・共有することで、従来の営業スタイルから脱却し生産性向上を図る。

重点取り組みと進捗

深掘型技術営業体制の構築 進捗評価：○

- 空調分野を主にお困りごとを解決する機能を対象とした研究開発を推進
- MA（マーケティングオートメーション）ツールやCRM（顧客関係管理）ツールの導入を決定

デジタルマーケティングの推進 進捗評価：○

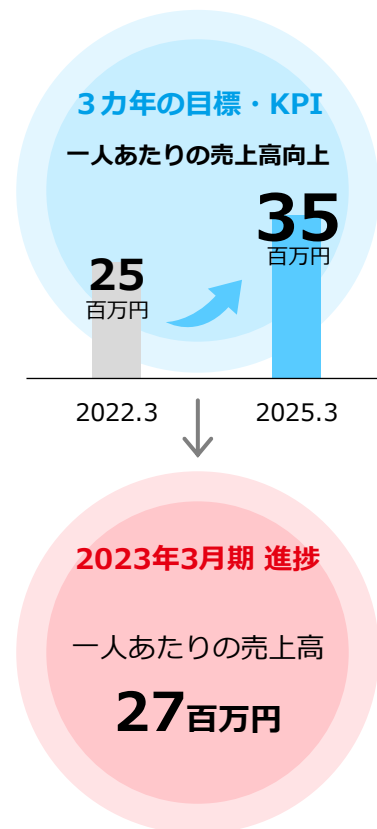
- 未開拓顧客との接点継続を自動化するためのMAツール導入に向けてソリューションサイトを公開

顧客情報の全社一元化、共有により販売効率を向上 進捗評価：○

- CRMツールの本格運用に向けた体制整備を推進

提案型のメンテナンスサービス体制の構築 進捗評価：○

- メンテナンス体制を構築した後のビジネスモデルとして、特許庁「経営デザインを通じた知財経営の導入支援事業」にて「予知保全」に向け新たなビジネスモデルの討議を開始
- 船舶排ガス用バルブのメンテナンスサービスを検討



戦略Ⅱ：既存の商品力を強化する

施策 生産体制の変革

- ◆ 多品種・小ロットが前提となるカスタマイズ製品の開発・供給が事業の負担にならないよう、カスタマイズ製品の標準化や、生産工程のシステム化・効率化を推進していく。

重点取り組みと進捗

蓄積した流体制御とシール技術を活かしたカスタマイズ製品の開発

進捗評価：○

- 製品の見直しだけでなく、販売から生産まで一気通貫した効率的な運用ができる体制への移行を目指す
- 電子制御バルブの進化版として、通信技術の高度化や予知保全を視野に入れたIoT対応バルブの開発を推進
- 検査工程の自動化を目指したAI診断機能の基礎研究を実施

生産業務のDX化を推し進め、生産性の向上、品質の安定化、コスト競争力を強化

進捗評価：△

- 新型検査機を導入し、DX化と作業時間短縮に取り組む
- 中小企業基盤整備機構の支援を受けて「生産工程の見える化」を推進
- 生産性向上に向けて生産管理システムの入れ替えを再検討

加工、組立、塗装、検査、物流工程の自動化・省力化・無人化の実現

進捗評価：△

- 船舶排ガス用バルブの梱包形態を木箱からダンボールへ移行
- 効率化やコスト低減が期待できるため、他製品への水平展開を推進中

2023年3月期 進捗

生産性向上の取り組みはやや遅れて進捗

船舶排ガス用バルブの梱包形態を木箱からダンボールへ移行

施策① ガバナンスの向上

- ◆ すべてのステークホルダーからの信頼を得て、オーケーエムグループの持続的な企業価値向上を図るため、コーポレートガバナンスの向上に向けた取り組みを推進する。
- ◆ 企業運営の健全性・効率性・透明性の向上を図り、適切なリスク管理に努める。

重点取り組みと進捗

グループ経営の最適化 進捗評価：△

- グループ経営の最適化に向けた取り組みを推進
- 2023年4月、グループ生産体制強化や生産DX実現のため生産企画部を新設
- 外観検査基準の認識統一に向けてサプライヤーへの指導を開始

情報発信の拡充 進捗評価：○

- 2023年3月、滋賀銀行とポジティブ・インパクト・ファイナンス（PIF）契約を締結
締結式を開催し、各メディアへの露出を獲得
- PIF実行にあたりオーケーエムグループのサステナビリティを再整理
その情報をもとに2023年4月に「サステナビリティサイト」を公開

コンプライアンスの徹底、リスク管理体制の強化 進捗評価：△

- 上場後2度目になる取締役会の実効性評価を実施
新たに策定した2023年度アクション・プランを網羅的に実行していく
- グループリスクマネジメントについての議論を開始したものの課題が残る

施策② サステナビリティをめぐる課題への取り組み推進

- ◆ 近年、企業には環境や気候変動問題への対応や多様な働き方などさまざまな社会課題に対応していくことが求められる。
- ◆ パーパスや社是に込められた想いや考え方を礎として、自社の企業価値向上と持続可能な社会に貢献していく。
- ◆ 2022年6月、サステナビリティの取り組みを加速させるべく「サステナビリティ委員会」を設置した。

重点取り組みと進捗

サステナビリティに関する3つの重点目標について各プロジェクトで展開

進捗評価：○

- PIF実行にあたりオーケーエムグループのサステナビリティを再整理し、経営陣や社員での複数回にわたる議論などを通じてマテリアリティ（重要課題）を特定
- マテリアリティ特定の過程においては、GRIスタンダードやSASBスタンダードなどを参考に当社グループが検討や対応すべきESG課題を抽出

2023年3月期 進捗

PIF実行
マテリアリティの特定
ESG課題の抽出

多様な人材が多様な働き方で安心して働けるよう職場環境の改善を推進

進捗評価：○

- 給与制度の改定や給与手当の見直しを実施
- 男性社員の育休取得を推進
- 周年事業の一環として作業着と女性社員の制服を刷新

2023年3月期 進捗

- 離職率 8.0%
- 給与制度改定後の給与上昇率 7.6%
- 男女間賃金格差 77.5%
- 女性管理職比率 4.3%
- 男性育休取得率 83.3%

戦略Ⅳ：社員満足度を向上させる

施策① 人材育成の加速化

- ◆「頑張った者、失敗を恐れずチャレンジした者」が報われ、社員とその家族が誇りを持てる会社づくりを目指す。

重点取り組みと進捗

社員教育制度の充実化

進捗評価：△

→新入社員からリーダークラスまでの階層別研修を実施

人事考課制度の見直し

進捗評価：○

→「頑張った人、失敗を恐れずチャレンジした人」が報われる新人事評価制度を導入

→海外子会社においても給与制度を見直し賞与に依存しない評価制度を策定

2023年3月期 進捗

階層別研修

受講者数188人
受講総時間 2,654時間
金額 6百万円

施策② ワーク・ライフ・バランスの推進

- ◆ワーク・ライフ・バランスを推進し、仕事と子育ての両立や多様な労働条件を整備し、働きやすい職場環境を整える。

重点取り組みと進捗

「働き方改革」に則した就業環境づくりへの取り組み

進捗評価：○

→年間休日の増加（117日→120日）やテレワーク対応を実施

風通しのよい職場づくり、失敗を恐れない風土づくり

進捗評価：△

→エンゲージメント向上のため、自己申告書を活用して三者面談を実施

福利厚生の実質化

進捗評価：○

→福利厚生サービスを新サービスに移行し、福利厚生の充実を図る

→ネットラーニングサービスを開始

2023年3月期 進捗

年間休日増
福利厚生を
新サービスへ移行

目標とする経営指標の進捗

- ◆ 2024年3月期は市場環境が回復傾向にあるものの、船舶排ガス用バルブの販売価格が下落することなどから2022年5月に公開した第1次中期経営計画より下回る見込み。
- ◆ 2025年3月期は、需要の立ち上がりや社内の各施策の成果が出始める見込みであることから変更なし。

連結売上高

124億円

中期経営計画最終年度
(2025年3月期)

営業利益率

8%以上

中期経営計画最終年度
(2025年3月期)

配当性向

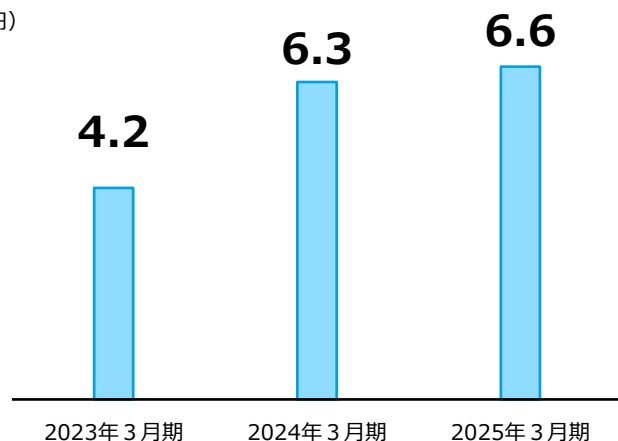
30%

(単位:百万円)	2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期
	実績値	目標値	修正目標値	当初目標値	目標値
連結売上高	9,164	9,500	10,000	10,900	12,400
売上高前年比	8.4%	12.3%	9.1%	14.7%	24.0%
営業利益	823	630	725	790	1,070
営業利益率	9.0%	6.6%	7.3%	7.2%	8.6%
ROE	8.7%	4.8%	5.0%	5.7%	7.2%
配当性向	23.6%	30%を目途とする			

- ◆ 2023年3月期については概ね計画通りの設備投資、研究開発投資を実施。
- ◆ 2024年3月期以降については、これまで以上のペースでの投資を計画。

設備投資計画

（単位：億円）

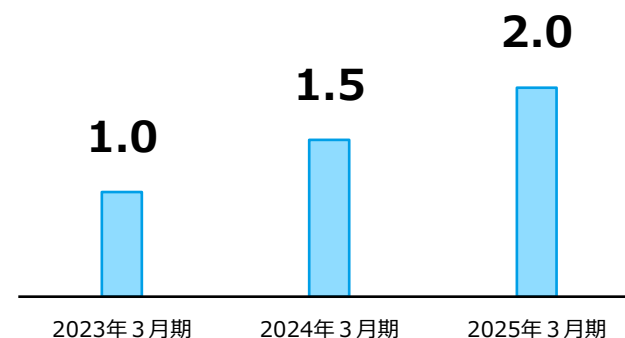


3年間で累計 **17.1** 億円の投資を計画

- 新規市場向け製品開発・既存製品再開発
- DX投資
SFA、CRM、MAツールの導入、
生産管理システム入れ替え、生産工程の見える化 など

研究開発投資計画

（単位：億円）



3年間で累計 **4.5** 億円の投資を計画

- 新市場向けバルブ開発
LNG、水素、アンモニアなど
- 既存バタフライバルブ再生開発
品質、生産性、収益性の見直し

サステナビリティへの取り組みについて

- ◆ パーパスや社是にもあるように、当社の根幹には事業を通じて社会に貢献していく考え方があり、企業に求められる「サステナブルの精神」を創業時から体現してきた。
- ◆ サステナビリティへの取り組みを効率的かつ計画的に進めるためにマテリアリティ（重要課題）を特定。事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献しながら、企業としても持続的な成長を目指す。

Purpose : いい流れをつくる。

社是 : 独創的な技術 / 最高の品質 最低の資源消費 / 余裕ある生活と豊かな心 / 地域社会に貢献する

3つのマテリアリティ （重要課題）

地球環境保全への取り組み

事業活動を通じ、資源の効率的な活用を推進し、地球環境を保全することにより持続可能な社会の実現に貢献します。

グローバル社会への貢献

独創的な技術の開発を追求し、インフラ整備を通じて、地域社会を含めたグローバル社会の持続的な成長に貢献します。

社員満足度の向上

社員の多様性を尊重し、真に豊かなところを持った社員の育成に努めます。

ESGへの取り組み（サステナビリティ戦略）

- ◆ 特定した3つのマテリアリティに紐づく、新たなESG課題によるサステナビリティ戦略を策定。
- ◆ 事業活動を通じ、社内一丸となって取り組みを加速化させ、持続可能な社会の実現に貢献していく。

Environment（環境）

気候変動への対応（脱炭素社会への貢献）

- ・脱炭素社会向けバルブの開発・販売
（水素・アンモニア用バルブ）
- ・低炭素社会向けバルブの販売展開
- ・CO2排出量の削減への取り組み
（太陽光システム導入・再エネ調達・LED化）

大気汚染の防止

- ・環境規制に対応した製品の開発・販売
（船舶排ガス用バルブ）

廃棄物の管理・削減

- ・廃棄物の適正管理、資源の有効利用



Social（社会）

労働安全衛生

（健康経営・ワークライフバランス）

- ・安全衛生管理への取り組み

ダイバーシティ

- ・多様な人材が活躍できる職場環境整備
（女性活躍・ハラスメント防止教育）

人材育成

- ・社員教育制度の充実
- ・人事考課制度の見直し

地域貢献

- ・地域貢献活動への参加
（次世代教育など）



Governance（ガバナンス）

コーポレートガバナンスの充実

- ・ガバナンス強化の取り組み
- ・適切な情報開示と透明性の確保
（情報発信の拡充）

社会規範・倫理の遵守と意識向上
（コンプライアンスの徹底）

- ・安全衛生管理への取り組み

ステークホルダーとの対話と協働

- ・定期的なステークホルダーとの対話
（株主・調達先・販売先）
- ・サプライチェーンマネジメントの体制整備

製品品質・製品安全

- ・生産性・品質向上及び
クレーム減少への取り組み



各種取り組みに対する評価

- ◆ 多様な人材が多様な働き方で安心して働けるよう職場環境の改善を推進した結果、各種評価を獲得。

国

● 経済産業省・中小企業庁



地域未来牽引企業
地域未来牽引企業



はばたく中小企業・
小規模事業300社

● 経済産業省・日本健康会議



健康経営優良法人2023（中小規模法人部門）

● 厚生労働省



くるみん認定

滋賀県



女性活躍推進企業



ワーク・ライフ・バランス
推進登録企業

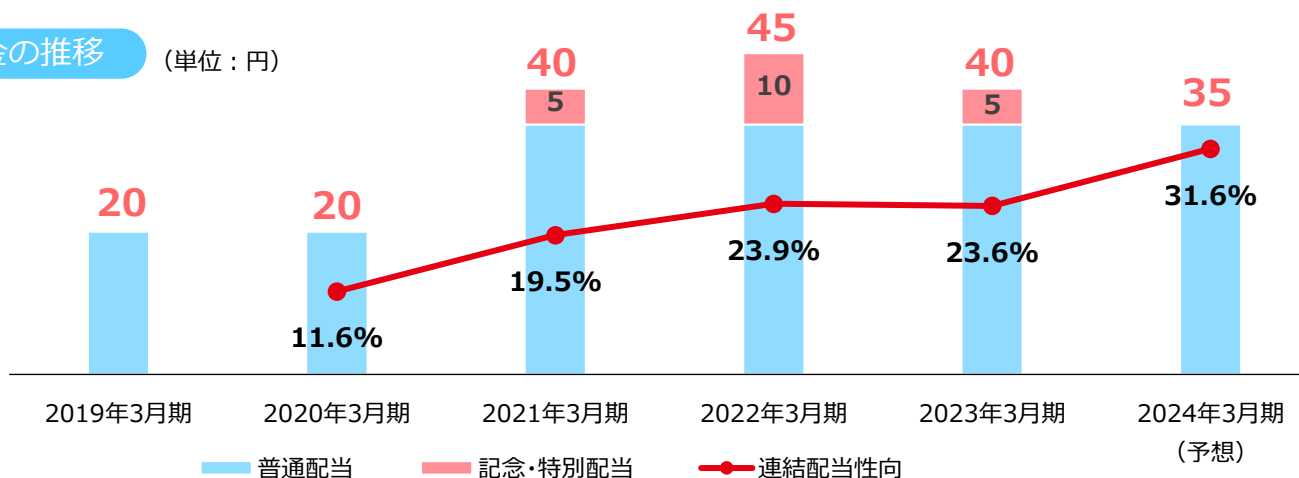


イクボス宣言

株主還元と今後のIR方針について

- ◆ 新技術や設備への投資とあわせ、継続的かつ安定的な株主還元も重要だと認識。
- ◆ 当面の間は、連結配当性向30%を目途として還元する予定。
- ◆ より多くの株主様に応援していただけるようIR活動についても強化していく。

配当金の推移 (単位：円)



今後のIR活動の方針

当社の状況や今後の施策について、投資家やステークホルダーの皆様にご覧いただくために、IR活動をこれまで以上に強化してまいります。これまで半期ごと（11月、5月）に開示していた決算説明資料を、四半期ごと（8月、11月、2月、5月）へと拡充します。

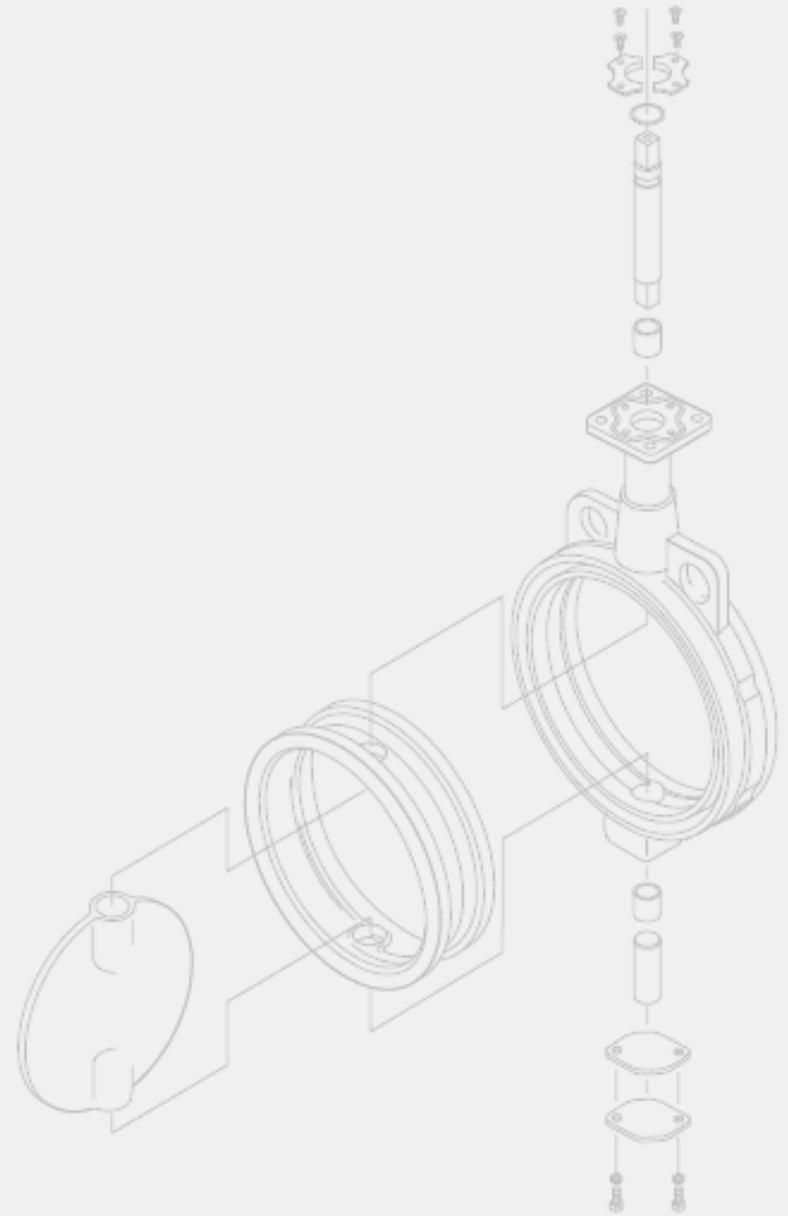
実施予定の施策

- ・ 四半期ごとに決算説明資料の開示を開始
- ・ 決算説明資料の構成・デザインを刷新
- ・ 対話の場を増やすため積極的な投資家向け説明会を開催（2023/3期 7回開催）
- ・ 1on1ミーティング件数を増加
- ・ 認知拡大に向けたコンテンツ発信（Webサイト、ニュースリリース、動画など）

5

参考資料

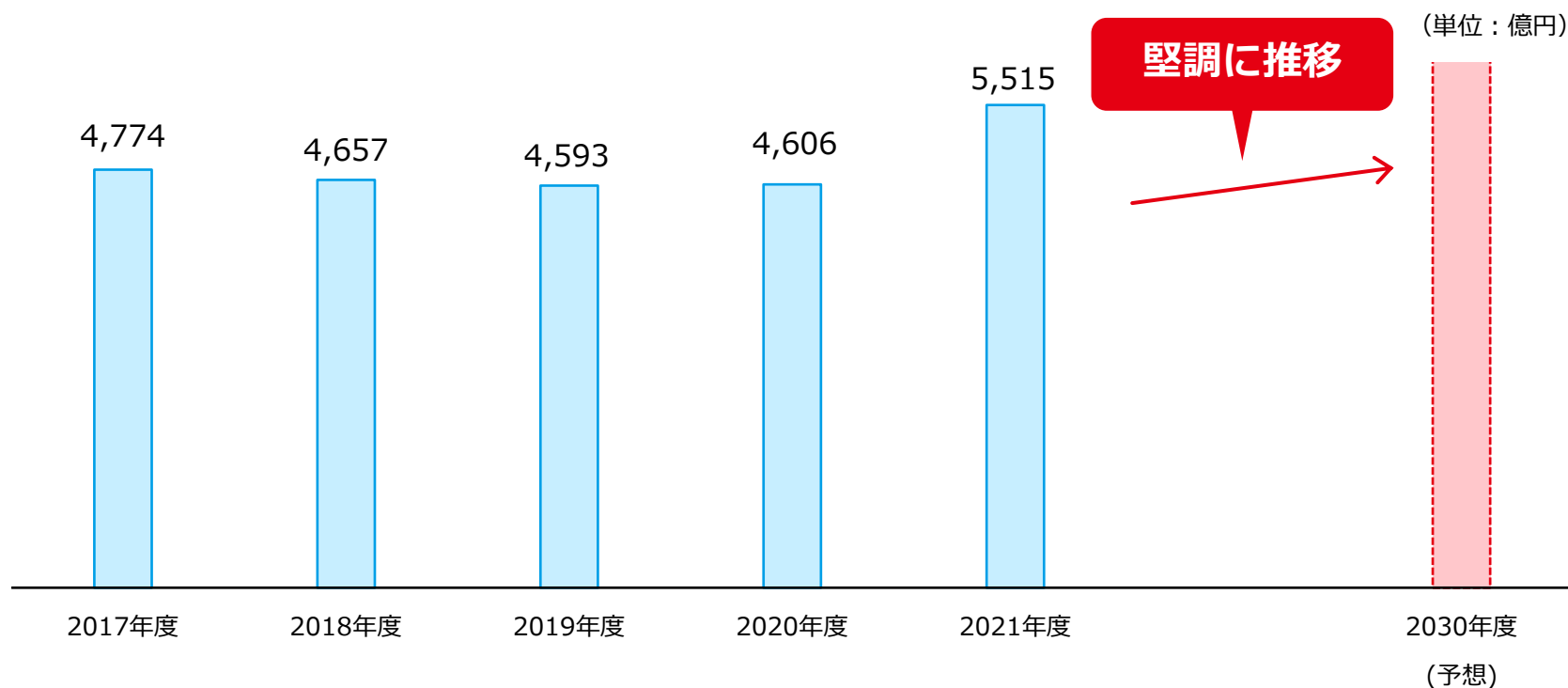
Appendix



事業環境① 国内市場規模推移

- ◆ 建築、発電、造船、各種プラントなど、幅広い業界からの需要があり、今後も堅調に推移する見込み。
- ◆ 脱炭素社会に向けた新エネルギーへのシフト、および環境規制、都市部の再開発、国内外の半導体工場の建設、新造船建造などに伴う需要が拡大する見込み。

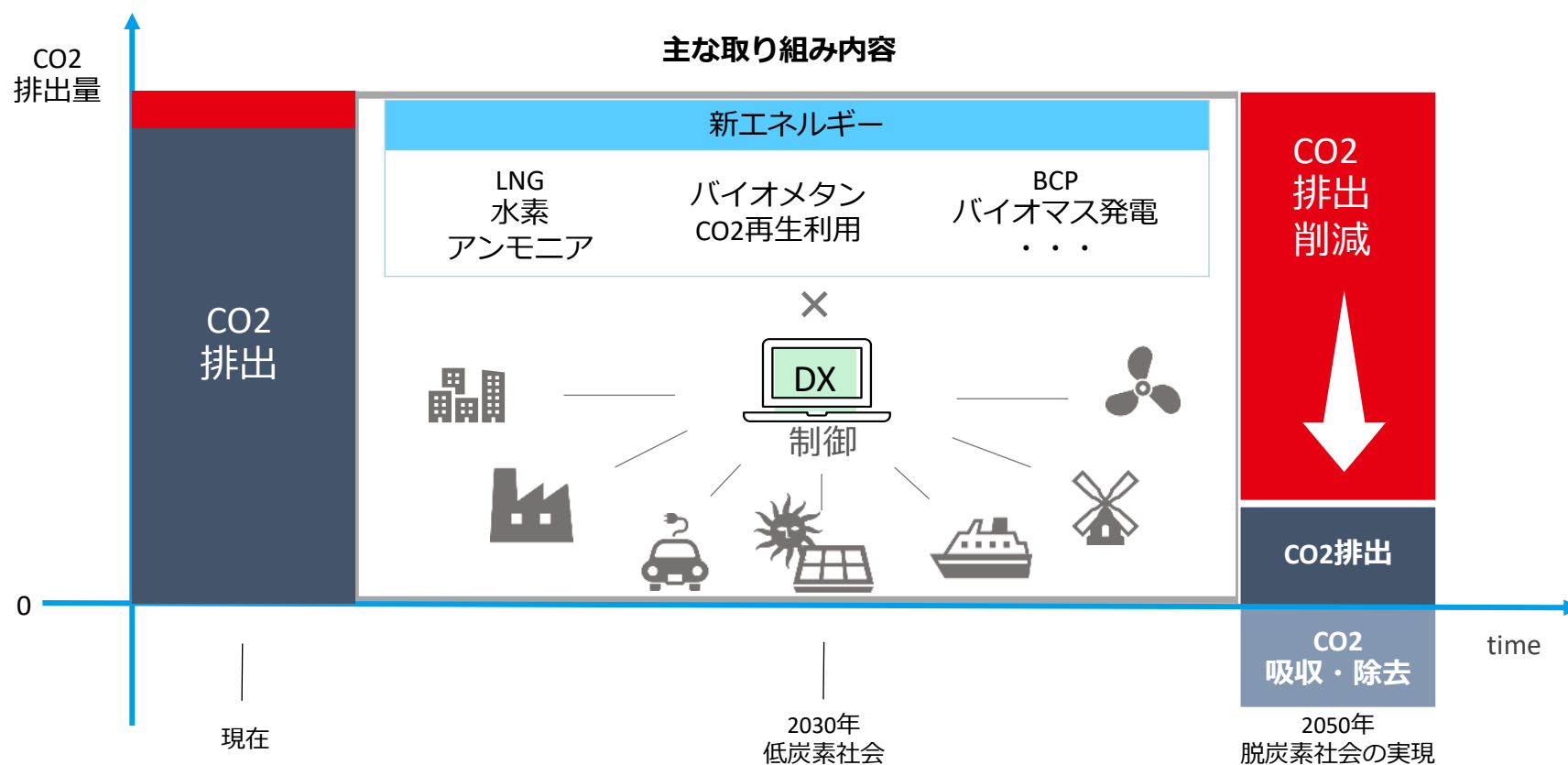
国内バルブ生産額推移



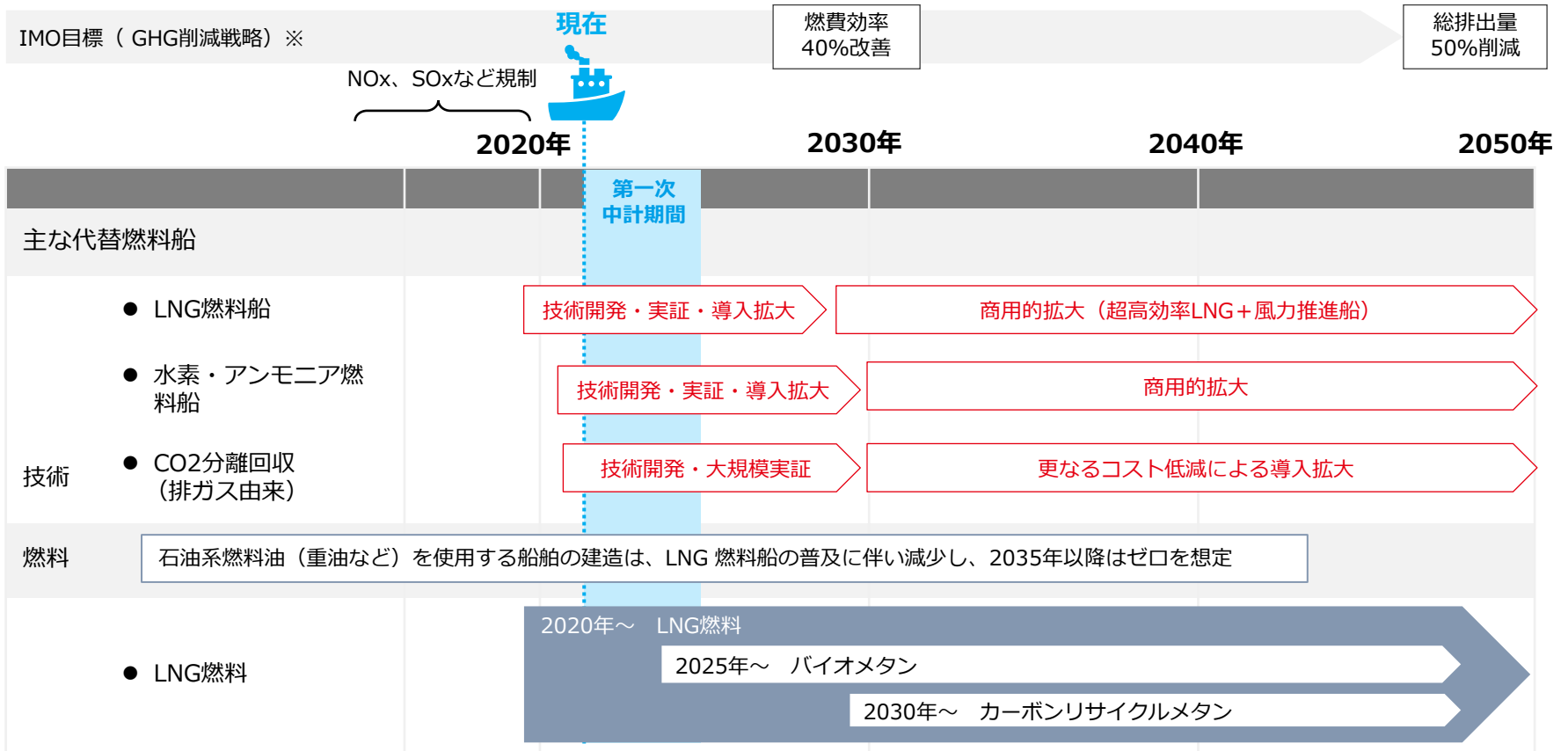
※ 経済産業省「鉄鋼・非鉄金属・金属製品統計」より当社作成
2030年度の予想値は、当社推計です

事業環境② 脱炭素社会に向けた世界の動き

- ◆ 脱炭素社会に向けた新エネルギーへのシフトおよび環境規制に伴う需要が発生。
- ◆ 省エネ実現のためにDX化が加速。
- ◆ 顧客ニーズの多様化により、高付加価値カスタマイズバルブの開発が求められる。
- ◆ クリーンエネルギーの製造・貯蔵・運搬の過程でバルブが必要に。



- ◆ 船舶からの排気ガス中の大気汚染物質（NOx、SOxなど）濃度の低減が求められる。
- ◆ 船舶排気ガス対策が急務となったことから、2030年以降は代替燃料の商用的拡大の見込み。



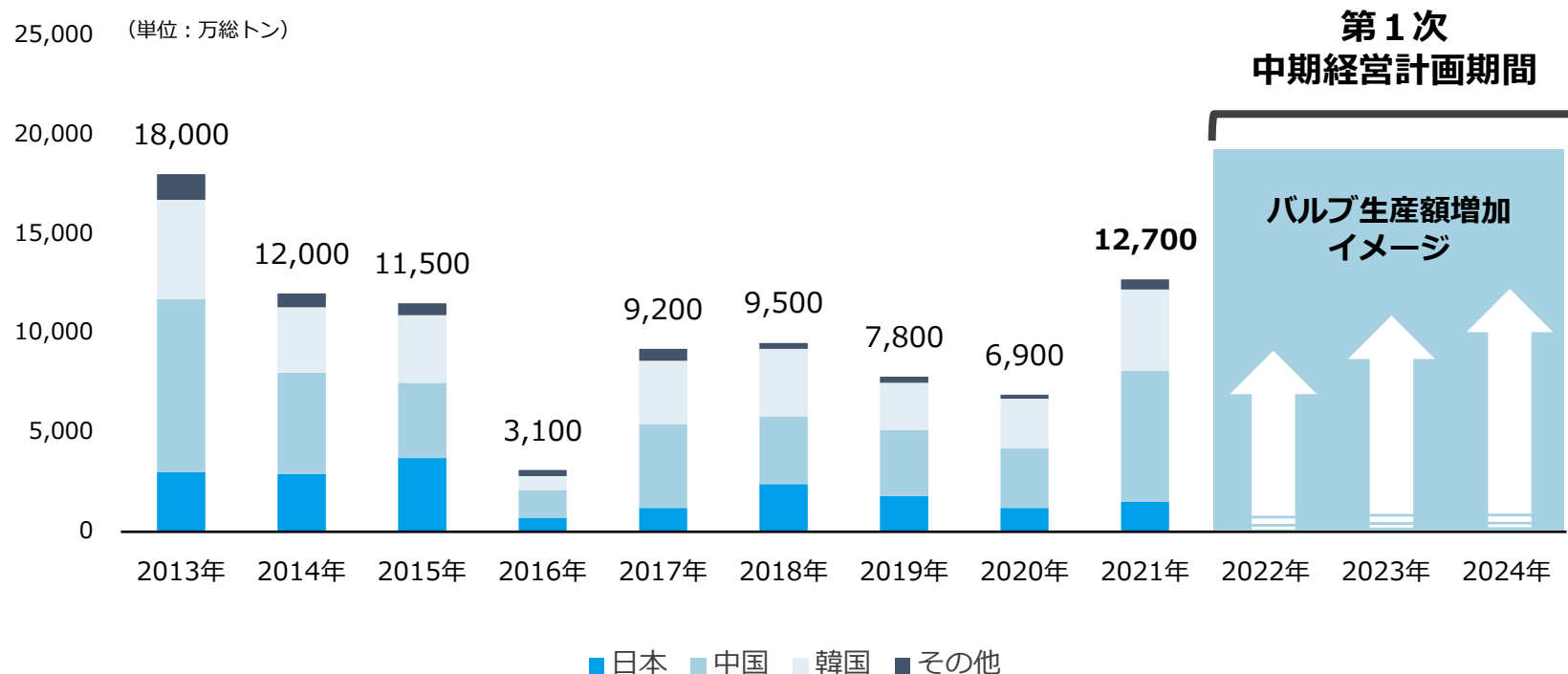
※ 国際海運GHGゼロエミッションプロジェクト「国際海運のゼロエミッションに向けたロードマップ」および内閣官房「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」をもとに当社作成

※ IMO（International Maritime Organization）とは、船舶の安全及び船舶からの海洋汚染の防止など、海事問題に関する国際協力を促進するための国連の専門機関

事業環境④ 世界の新造船受注量の推移

- ◆ 2021年の新造船受注量増加に伴い、バルブ生産額増加の見込み。
- ◆ 新燃料船の増加により、新たなバルブ需要が見込まれる。
- ◆ 船用バルブは、新造船受注後1年半から2年程度で納入が開始されるため、今後の成長に期待。

世界の新造船受注量の推移



(出典) 日本船用工業会資料などより当社作成

時代やトレンドを捉えた製品をいち早く提供し、幅広い業界の大手優良顧客基盤を確立
長年掛けて蓄積した多様なデータを活用し、新たな製品を生み出している

造船・重機



- ・今治造船
- ・日立造船
- ・三菱重工業
- ・マキタ
- ・JMU
- ・三井E&S造船
- ・川崎重工業
- ・ヤンマー 他

半導体



- ・キオクシア
- ・ソニー
- ・京セラ
- ・東京エレクトロン
- ・ローム
- ・富士通 他

食品・医薬



- ・アサヒビール
- ・キリンビール
- ・ブルボン
- ・永谷園
- ・カルビー
- ・キューピー
- ・ハウス食品
- ・マルコメ 他

超高層・複合ビル



- ・常盤橋タワー (A棟)
- ・あべのハルカス
- ・横浜ランドマークタワー
- ・六本木ヒルズ森タワー 他

駅・空港施設



- ・大阪駅
- ・羽田空港
- ・関西国際空港 他
- ・東京駅
- ・成田空港

アミューズメント施設



- ・東京ディズニーシー
- ・ユニバーサルスタジオジャパン
- ・ハウステンボス
- ・ナゴヤドーム 他

海外

- ・Hyundai Heavy Industries Co.,Ltd. (韓国/船舶エンジン)
- ・Ajinomoto Co., (Thailand) Ltd. (タイ/食品)
- ・Taganito HPAL Nickel Coporation (フィリピン/ニッケル鉱山)
- ・上海中船三井造船柴油機有限公司 (中国/船舶)
- ・南京聯合鋼鉄 (中国/PSA)
- ・長江存儲科技有限責任公司 (中国/半導体)
- ・Syarikat Air Terengganu Sdn bhd (SATU) (マレーシア/水道公社)
- ・Hanoi Water Works (ベトナム/水道公社)
- ・FGV Holdings Berhad (マレーシア/パーム油)

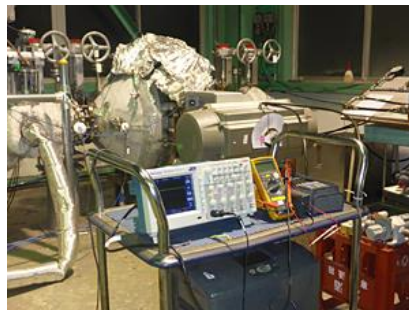
(順不同)

オーケーエムの強み② 製品開発機能

各種実験プラントを自社で保有して、さまざまなデータを収集・解析
世界に貢献する「独創的な技術」を創造し、社会へ提供していく

高温流体試験

実際に製品が使用される温度環境を再現する試験で、電気ヒーターにて最高「700℃」の熱風を発生させ高温状態でバルブの性能や特性を評価する。



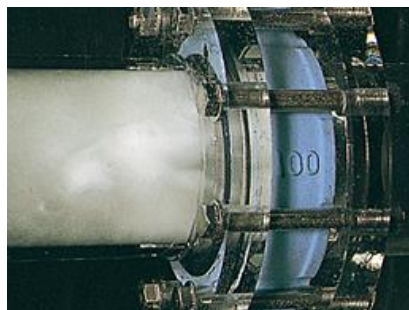
ファイヤーセーフ試験

消火設備や可燃性流体を通す配管での使用を想定し、火災などで焼損した状態でも一定の性能が維持できているかどうかの性能を評価する。



キャビテーション試験

配管浸食・騒音・振動の原因となるキャビテーション（液体の流れの中で圧力差により短時間に泡の発生と消滅が起きる物理現象）発生時のバルブの性能や特性を評価する。



低温流体試験

実際に製品が使用される温度環境を再現する試験で、液体窒素を投入して「-196℃」の低温状態でバルブの性能や特性を評価する。



顧客の使用条件により近い環境を実現

(例) 耐熱温度範囲：-196℃～700℃

オーケーエムの強み③ カスタマイズ製品

広範囲にわたる業界に対応できる製品ラインナップを保有し、顧客の個別ニーズに合わせたカスタマイズバルブを開発・供給

当社がカスタマイズするバルブ

型式	×	サイズ	×	部品	×	材質	×	制御方法
<ul style="list-style-type: none"> ・バタフライバルブ ・ナイフゲートバルブ ・ピンチバルブ ・チェッキバルブ など 		内径サイズ (最小25mm～ 最大3,000mm)		<ul style="list-style-type: none"> ・本体 ・弁体 ・シートリング ・上部弁棒 ・ガスケット 		<ul style="list-style-type: none"> ・ダクタイル鋳鉄 ・鋳鋼 ・ステンレス ・樹脂 ・ゴム など 		<ul style="list-style-type: none"> ・レバー式 ・ギヤ式 ・シリンダ式 ・電動式



化学薬品・石油オイル関係・
高圧蒸気・高圧流体用
ハイパフォーマンスバタフライバルブ



製紙・石油化学・化学・
食品・鉱山・下水処理・
高濃度・粘度流体用
ナイフゲートバルブ



ヘドロ・鉱石スラリー・セメント・粉体・
バルブ・下水汚泥など用 ピンチバルブ

➡ **10万種類以上**

多品種・小ロットが前提となるカスタマイズ製品の開発・供給が事業の負担にならないよう、カスタマイズ製品の標準化や、生産工程のシステム化・効率化も推進していく

DATA: 連結業績推移

(百万円)

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期
売上高	8,646	8,852	8,759	8,456	9,164
前年比	–	2.4%	▲1.0%	▲3.5%	8.4%
売上総利益	3,657	3,368	3,481	3,075	3,368
前年比	–	▲7.9%	3.4%	▲11.7%	9.5%
売上総利益率	42.3%	38.1%	39.7%	36.4%	36.8%
販管費	2,318	2,475	2,472	2,413	2,545
前年比	–	6.8%	▲0.1%	▲2.4%	5.5%
販管費率	26.8%	28.0%	28.2%	28.5%	27.8%
営業利益	1,338	892	1,009	662	823
前年比	–	▲33.3%	13.0%	▲34.4%	24.3%
営業利益率	15.5%	10.1%	11.5%	7.8%	9.0%
経常利益	1,335	849	1,025	724	870
前年比	–	▲36.4%	20.8%	▲29.3%	20.0%
経常利益率	15.4%	9.6%	11.7%	8.6%	9.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	891	573	749	850	767
前年比	–	▲35.7%	30.8%	13.4%	▲9.7%
当期純利益率	10.3%	6.5%	8.6%	10.1%	8.4%
ROE	17.3%	10.1%	11.2%	10.5%	8.7%

DATA:貸借対照表推移

(百万円)

<主な項目>	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期
資産合計	10,884	10,318	12,006	12,365	12,574
流動資産	7,692	6,513	7,252	7,925	8,190
現預金	2,148	2,015	3,071	3,480	1,613
固定資産	3,192	3,804	4,754	4,440	4,384
有形固定資産	2,779	3,222	4,220	4,022	3,870
無形固定資産	111	257	242	190	167
投資その他の資産	303	323	291	227	346
負債合計	5,724	4,667	4,324	3,845	3,364
流動負債	3,433	2,272	2,099	2,166	2,282
固定負債	2,291	2,395	2,225	1,678	1,081
純資産合計	5,161	5,650	7,681	8,520	9,209
自己資本比率	47.4%	54.8%	64.0%	68.9%	73.2%

■ 将来予測に関する注意事項

本資料に掲載している将来予測に関する情報は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいています。

そのため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

■ IRに関するお問い合わせ先

株式会社オーケーエム

管理統括本部 経営企画部 経営企画課

メールアドレス : prir@okm-net.co.jp

